

[A部会 発表要旨]

数学的に考える資質・能力を育成する研修の在り方 ～見通しをもち、適切に評価する指導を通して～

岐阜県総合教育センター
指導主事 和泉 宏紀

I はじめに

岐阜県では、より質の高い教育を実現するために、教職員の資質の向上を図る研修を計画的に進めている。児童生徒が確かな学力を身に付け、将来、ふるさと岐阜県を担っていくためには、教員が学び続け、自らの資質を向上していくことが不可欠である。

令和4年度には、小・中学校の教員を対象に、算数・数学の研修を年間15回行った。「学習指導要領の記述の意味や解釈、単元・単位時間での学習指導の在り方について理解し、自らの指導法を見直すきっかけとなった。」等の振り返りを受講者から聞くことができた。その一方で、授業の改善を図るための指導と評価の一体化や、学習評価の在り方、教科におけるICTの活用等について、更に詳しく学び、児童生徒の数学的に考える資質・能力の育成につなげたいという要望も寄せられた。

そこで、受講者のニーズに基づき、学習内容の系統性や発展性を踏まえ、見通しをもって教科の指導に臨める研修、授業の改善と評価の改善を両輪として学習評価を充実させる研修等を実施した。本部会では、その取組について報告する。

II 取組概要

- 1 「岐阜県『教員のキャリアステージ』における資質の向上に関する指標」に基づいた研修
 - ・経験年数2年目から5年目の若手教員を対象にした「基礎形成期」の研修。
(学習指導要領の内容を踏まえ、単元と一単位時間の授業の指導方法を身に付ける研修)
 - ・経験年数6年目から12年目の中堅教員を対象にした「資質向上期」の研修。
(全国学力・学習状況調査を用いた実態分析を通して、児童生徒の学習状況の改善等につながる研修)
- 2 授業改善を図る「指導と評価の一体化」の研修
 - ・指導内容の系統性や発展性を踏まえた指導計画と、評価規準の作成や評価方法の工夫についての基礎を学ぶ研修。
 - ・児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図り、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするための研修。
- 3 「個別最適な学び」を実現するICT研修
 - ・一人一人の学習データに基づき、児童自身が学び直しや発展的な学習が行える「NEW! GIFUウェブラーニング(学習支援ソフト)」を授業で活用するための研修。
- 4 統一的・発展的に考える力を高める大学と連携した研修
 - ・教員養成系大学の先生を講師に迎え、自らの日々の授業を振り返るとともに、専門的な知識や技能を身に付け、教科の専門性を高める研修。

III 成果と今後の方向

学校や先生方のニーズがどこにあるかを把握することで、指導の工夫の幅を広げる研修を仕組むことができた。「指導と評価の一体化」の研修では、指導と評価の計画を立てるという営みが、大切にしたい数学的な見方・考え方への気付きにつながり、単元全体を俯瞰的に捉えることにつながった。今後は、受講者からの振り返りやアンケートの結果を分析し、教師一人一人の資質向上につながる研修になるよう、内容を精選していきたい。